

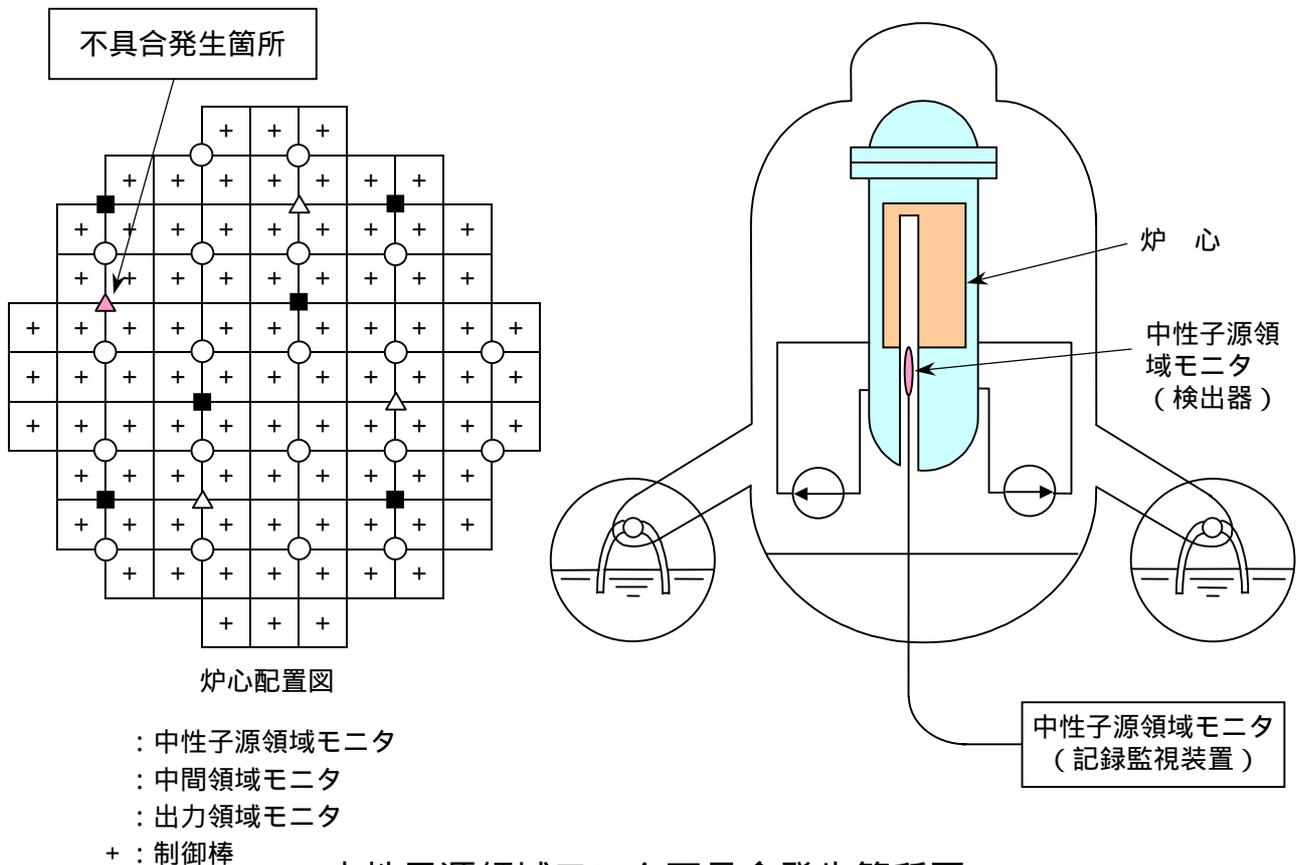
中性子源領域モニタ（A）の不具合について

志賀1号機は、原子炉を起動し原子炉圧力上昇中のところ、12月13日午前9時50分頃、中性子源領域モニタ^{*1}（A）の指示が不安定であることを確認しました。事象発生時、原子炉の出力は、中間領域モニタ^{*2}及び平均出力領域モニタ^{*3}で監視しており、中性子源領域モニタは使用状態にはありませんでした。

原因は、中性子源領域モニタ（A）の検出器の性能劣化と判断し、当該モニタ（A）を予備品と交換し復旧しました。

外部への放射能による影響はありません。

- * 1 原子炉停止中および原子炉起動時の原子炉出力を監視するための測定装置で、全部で4チャンネルある。
- * 2 原子炉起動後の低出力状態での原子炉出力を監視するための測定装置で、全部で6チャンネルある。
- * 3 低出力状態から通常運転状態までの原子炉出力を監視するための測定装置で、全部で6チャンネルある。



中性子源領域モニタ不具合発生箇所図